



# 新病院長の紹介

## 熊本市立植木病院



院長  
内野 良仁

植木病院は昭和三十一年に菱形診療所と鹿南診療所を合併して国民健康保険植木町立病院（一般十六、結核七、伝染十二）として発足し、初代院長に吉尾謙二先生、二代目院長に昭和三十五年大淵龍志先生が就任されました。当時は、自動車の普及に伴い国道三号線沿いで交通事故が多発するため、高エネルギー外傷を含めた救急医療を担っていました。昭和五十七年に三代目院長として大塚樹也先生が就任され、救急医療だけでなくがん検診や成人病（生活習慣病）にも力を注がれ、CT装置や血管造影装置など当時としては最新の機器を導入されました。平成十年には四代目院長として鳥越義継先生が就任され、経営の健全化によって平成十四年十二月に植木町舞尾から現在の植木町岩野に新築移転しました。建物は十年経った今でも古さを感じさせず、広域災害にも対応できるように広い廊下や太陽光発電、採光を考えた病棟の配置がなされています。平成二十二年三月に植木町の熊本市への合併により熊本市立植木病院と名称が変更され、熊本市の管理となりました。

私が就任しました。現在の病院機能は、一般病床が一〇二床、医療型療養病床が三九床の計一四一床で、内科五名（代謝内科二名、消化器内科二名、一般内科一名）、循環器内科一名、整形外科一名、外科三名の計十名です。医師だけでなく限られた医療スタッフで救急医療や近隣の医療機関からの紹介患者の受け入れに積極的に対応し、保険・福祉機関との連携にて在宅医療や健診に取り組んでいます。

一人何役もこなさなければならぬ地域医療の現場では、専門性志向の強い医師からは敬遠され、社会もまた専門性を問う傾向が見られます。医師だけでなく看護師や理学療法士、薬剤師など全職員の人事権は熊本市病院局にあり、植木病院での全職員数が限られている為、今日目まぐるしく変わる医療制度には到底対応しきれないのが現状です。それでも昨年十月には地域包括ケア病床を設け、高度の急性期医療を受けた患者さんの受け入れを積極的に進め、在宅へ向けての退院支援を進めました。更には施設基準の見直しと新たな取得に向けて改善したことにより、平成二十六年の経営収支を一〇・八%と黒字化することが出来ました。これからも公共性を確保し、健全経営の確保に努めたいと思います。

超高齢化社会に向けて住民と共に歩み、地域を支える自治体病院として職員一同頑張りますので、引き続きご支援の程何卒宜しくお願い申し上げます。

## 天草市立牛深市民病院



院長  
松岡由紀夫

熊本県の地の果て天草市牛深から御挨拶申し上げます。当院に赴任して二年経過しますが未だ挨拶が済んでいないとの事で、二外科の先輩である木原信市先生よりご指名を受けました。はじめ断つたのですが、愚痴でも何でもいいから書けという事でした。愚痴なら、医師、看護師、薬剤師の不足、医療制度、行政機関との関係、等々山ほど書ける、と思います。すぐにでも山ほど書ける、と思います。引き受けました。しかし愚痴は言う方はストレス発散になっても聞く方は実につまらないものですので、愚痴を言うのをやめました。

日本の宝島天草、というキャッチフレーズを天草市では使っています。熊本市から車で約三時間かかりますのでたぶん一番遠いのではないかと思います。また牛深にもいくつかの個人病院があります。市民病院は牛深の中でも一番南のはずれにあります。そこで「熊本から一番遠い医療機関、牛深市民病院」というキャッチフレーズを勝手に作っています。

以前は牛深市立でしたが平成十八年の二市八町の大合併によって、他の四町立医療機関とともに天草市立となりました。ベッド数一五〇、常勤医師七名の小さな病院です。定員を大きく下回っている医師で、特に自慢できるような高度の医療や得意な

医療を提供しているわけでもなく、豪華な建物でもなく、非常勤医師に多く依存して多くの高齢者対象にほぼそとやっています。

それにしても若い医師の方はどこへ行ったのでしょうか。毎年約一〇〇名の医師が熊大から輩出されているはずですが、いろいろ説明を聞きませんがどうも納得いきません。これを読まれた先生方で僻地医療もいいなあとと思われる方は是非一考ください。特に内科医、整形外科医は喉から手が出る程ほしいものです。

（あつ、思わず愚痴ってしまつた）

しかし苦しい状況にあつても、この病院はこの地域にとつて絶対不可欠のものだ、という強い確信のもと、今後どう発展維持していくかを模索しています。しかし社会情勢や医療環境は自分個人ではいかんともしがたく、まず自分の足元を固めようという事で、職員の再教育を考えています。しかし自治体病院の最大の欠点である公務員としての身分が保証されているというぬるま湯体質があり、また、外へ出たくない、外から入れたくないという田舎者の考えも強く、思うような教育訓練ができず苦労しています。先日熊本県自治体病院協議会総会を当地で開催いたしました。同じような頭痛の種を各病院持っているようです。

山生まれ、山育ちの私にとつて海岸沿いに住むことは初めてです。病院の眼下に東シナ海が無限に広がります。朝昼晩、春夏秋冬毎日変化する海に感動しています。真っ青な輝く海もいいものですが、荒れ狂う灰色の海もまたいいものです。天草観光という松島、本渡あたりで止まってしまう人も多いようですが、皆さま是非牛深まで足を伸ばしていただきたいものです。食べる魚に釣る魚、見る海に泳ぐ海、潜って見る珊瑚に捕るあわび、お待ちしております。